

6th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入選作品

主催 若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
主管 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会
協賛 富士フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	盛夏のささやき	渋谷 繁子	玉造郡岩出山町
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	幽 幻	佐藤 文昭	登米郡迫町
金 賞 (若柳町長賞)	霧の陽光に飛来	駒口 洋一	宮城県石巻市
金 賞 (築館町長賞)	伊豆沼の耀き	菅原 敏彦	黒川郡大和町
金 賞 (迫町長賞)	双 翔	早坂 静雄	宮城県仙台市
銀 賞 (若柳町観光協会会長賞)	おら家(え)の孫	大場 宗男	栗原郡若柳町
銀 賞 (築館町観光協会会長賞)	ふ れ あ い	加藤 達也	桃生郡矢本町
銀 賞 (迫町観光協会会長賞)	つ い ば む	佐々木 伸	登米郡中田町
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	求 愛	菅原 勉	登米郡中田町
銅 賞 (河北新報社賞)	晚 秋	岩松 兵吉	宮城県仙台市
銅 賞 (読売新聞社賞)	夏の伊豆沼	菊池 永	桃生郡矢本町
銅 賞 (朝日新聞社賞)	立冬の頃	工藤 晃生	宮城県古川市
銅 賞 (毎日新聞社賞)	夜明けの伊豆沼	鈴木 正一	宮城県仙台市
銅 賞 (岩手日報社賞)	やすらぎ	玉木 守	宮城県仙台市
入 選	極楽の夢跡	栗野 正弘	栗原郡高清水町
入 選	日の出に集うサギ	伊藤 利喜雄	岩手県一関市
入 選	伊豆沼の夕暮れ	氏家 泰子	宮城県仙台市
入 選	お姉さん“いただき”	鈴木 義夫	栗原郡若柳町
入 選	夕 景	高橋 成幸	宮城県古川市
入 選	葦原を染めて	根本 弘美	黒川郡富谷町

総 評

素晴らしい自然環境を誇る伊豆沼や内沼。この湖沼群と周辺がいかに美しく、豊かな自然に恵まれているかということ、あらためて確認しました。というのは、この審査の直前に伊豆沼を訪れ、私自身、この眼で見届けた結果、その思いをより強く実感することができたからです。

古代から、連綿として引き継がれてきたこの野鳥の楽園。このような豊かな自然の姿を永遠に残していくのは、現代に生きる我々に課せられた大きな使命であると思います。また、この素晴らしい環境を写真に捉え、同時代を生きる多くの人々に伊豆沼・内沼の姿を伝えていくことが大切なのです。そして、写真を愛する人々が、意識を持って撮影を続けることで、この地域の自然保護が重要な意味を持つてくるのだと思います。

今回のコンテストは、前回よりも応募数が増えて、表現の上でも変化が見られます。だが、被写体としての伊豆沼や内沼の風景。あるいはハスや水草などの水性植物。各種の野鳥の姿を、十分に捉えきっているとは言えません。まだまだ発見しなければならない素材もあるし、もっと素晴らしい撮影ポイントや、よりの確なフレーミング、シャッターチャンスもあるでしょう。このかけがえのない自然の姿を、もっと美しく、もっと細やかに、もっと見事に捉えることが可能だと思います。伊豆沼・内沼はそのような素材です。この素晴らしい被写体は、相手にして不足なしですから、もっとがんばって傑作をモノにして欲しいと思います。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。感覚の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、『桜』をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会、日本旅行作家協会の各会員、日本写真芸術専門学校、現代写真研究所の各講師。



【評】 見事なハスの花と水草の群れ。前景に配した小舟をポイントにして、美しくまとめています。伊豆沼・内沼という、どうしても冬の野鳥の写真をイメージしてしまいましたが、このような夏のハスの見事な開花も、世界に誇れる風景だけに、新たな魅力を捉えた作品として評価したいと思います。



【評】 枯れ野を背景とした沼の風景に、独特の風情を感じます。白いサギの群れの中に、一羽のコウノトリが捉えられている点も、いいタイミングでありました。低速シャッターのために、鳥に動きが感じられるところも、写真的な面白味が出ています。



金賞（若柳町長賞）
「霧の陽光に飛来」
駒口 洋一

【評】 まさに朝日が昇らんとしている、伊豆沼の典型的な光景です。手前に群れる野鳥の群れと上空に飛び交う数羽の群れ、そして昇る太陽と空の調和が美しく保たれている作品です。

金賞（築館町長賞）
「伊豆沼の耀き」
菅原 敏彦



【評】 湖面を金色に輝かして朝日が昇ってきます。その光の輝きを象徴的に捉えていて印象が深い作品です。静かな湖面に、たった一羽飛び立ったカモの羽音が聞こえてきそうな雰囲気です。



金賞（迫町長賞）
「双翔」
早坂 静雄

【評】 水面を蹴つて飛び立とうとする瞬間か、あるいは飛翔が終わり着水する瞬間に捉えた二羽のハクチョウの姿。二羽とも揃って羽や首が伸びきっており、それがとても美しく捉えられています。



銀賞(若柳町観光協会会長賞)
「おら家の孫」 大場 宗男

【評】 見事に開いたハスの葉を、帽子と合羽がわりにした二人の子供。このアイデアの面白さと、二人の喜びが素直に表現されていて楽しい作品です。

銀賞(築館町観光協会会長賞)
「ふれあい」 加藤 達也



【評】 なかなかユーモラスなシーンです。この女性、なかなか勇気があって、ハクチョウとのキスシーンを演じているところが面白いと思います。理屈抜きに楽しめる作品です。

銀賞(宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)
「求 愛」 菅原 勉



銀賞(迫町観光協会会長賞)
「ついでむ」 佐々木 伸



【評】 超望遠レンズで、餌をついでむ小鳥の姿を美しく捉えて成功しました。二羽の姿もさることながら、画面が対角線で仕切られて、動きが感じさせてくれました。

【評】 たわむれる二羽のカモメ。いいシャッターチャンスといいライティング。写真撮影の基本を踏まえた作品です。背景の空間にも情感が感じられます。

銅賞（河北新報社賞）
「晩秋」

岩松 兵吉



【評】 全盛を誇ったハスが枯れて、茶色の湖面が生まれました。遠景が陰っていたために、引き締まった構図になり、印象が深まりました。

銅賞（読売新聞社賞）
「夏の伊豆沼」

菊池 氷



【評】 湖面の全面を覆うように、見事に張りつめたハスの花が壮観です。これは正に桃源郷というイメージの作品です。

銅賞（毎日新聞社賞）
「夜明けの伊豆沼」

鈴木 正一



【評】 明けゆく伊豆沼の静寂感が、美しく捉えられています。水面の輝きと小舟の配置が見事な作品です。

銅賞（朝日新聞社賞）
「立冬の頃」工藤 晃生



【評】 秋も深くなって草花は枯れ、朽ちていきます。やがて、厳しい冬を迎えるというのにこのトンボ。その姿に哀感が滲んでいます。

銅賞（岩手日報社賞）
「やすらぎ」

玉木 守



【評】 太陽の輝きと、内沼の湖面をいくハクチョウの姿が、とてもいいタイミングで捉えられています。

入選
「極楽の夢跡」

栗野 正弘



【評】 秋になって枯れてしまったハスの群れ。今は寂しく線だけになってしまったハス田の様子が、ブルートーンで美しく表現されています。

入選
「日の出に集うサギ」

伊藤 利喜雄



【評】 湖面に羽を休めるサギの姿が美しい作品です。いいポイントを、いいタイミングで捉えた作品です。

入選
「伊豆沼の夕暮れ」

氏家 泰子



【評】 西の空と水面を紅く輝かして、夕日が沈んでいきます。野鳥がねぐらに帰る頃の時間帯が美しく捉えられています。

入選
「お姉さん "いただき"」

鈴木 義夫



【評】 内沼に集う人とハクチョウとの交流が、楽しく捉えられています。「人と野鳥のふれあいが貴重です。」と教えてくれる作品です。

入選
「夕景」

高橋 成幸



【評】 水面に設置された魚網と、その輝きが美しい作品です。ポイントにサギを選んで、画面が引き締まりました。

入選
「葦原を染めて」

根本 弘美



【評】 葦が穂を出した秋の内沼でしょうか。湖面を輝かしている太陽と、葦原とのバランスが整っている点が素晴らしい。